

Title	マレーシアにおける就学前教育の実践と改革動向：英語教育を中心に
Author(s)	杉本, 均; ベー, シューキー
Citation	京都大学大学院教育学研究科紀要 (2003), 49: 92-107
Issue Date	2003-03-31
URL	http://hdl.handle.net/2433/57502
Right	
Type	Departmental Bulletin Paper
Textversion	publisher

マレーシアにおける就学前教育の実践と改革動向

—英語教育を中心に—

杉 本 均・ベー シューキー

Recent Reforms and Practice in Pre-school Education in Malaysia:
Focusing on the Teachings in English

SUGIMOTO Hitoshi & BEH Siew Kee

はじめに

就学前教育はマレーシアにおいても日本においても、児童の発達の基礎を形成する重要な教育段階でありながら、公教育体系の中心的構造と位置付けられることはなく、(1)その認知的教育内容において具体的なガイドラインを提示できる以前のレベルであると考えられてきたこと、(2)家庭による教育の要求のレベルや性格に大きな差があることなどから、画一的な教育管理は避けられ、個々の家庭や幼稚園、保育所といったレベルでの選択に任される傾向があった。

しかし、この時期（5歳～6歳以前）の教育は児童の身体的、情緒的発達にとってはもちろんのこと、認知的発達にとってもきわめて重要な時期であることから、様々な教育理論や哲学の実践者や支持者、宗教的・民族的団体にとっては、画一的な公教育プログラムに子どもが包摂されるまえの、比較的自由的な教育実践の許される貴重な教育段階として、もっとも多様で、意欲的な試みが実践されるフィールドでもあった。従って、マレーシアでも一般的ガイドラインが施行された今でも、実に多様な就学前教育の実践が行われており、きわめて興味深い反面、全体を統括する機構や統計がなく、その全体像を描くことは容易なことではない。

2002年7月マレーシア政府は初等・中等教育レベルの理科・数学（算数）の授業を、これまでの言語にかえて英語で教えるという内閣決定を発表した。マレーシアの小学校は授業言語媒体によって3種類の小学校が独立して管理されており、国民小学校はマレー語、華人やインド系の児童の多い、国民型小学校は華語もしくはタミル語で授業してきたが、とりあえずマレー語学校からこの措置は導入される予定である。2003年から各段階の第一学年（小学校1年、初級中学校1年、フォルム6前期）に入学するコーホートから、理科・数学の授業が英語に切りかえられることになる¹⁾。

表1 理数科科目の英語による授業の小学校と中学校での開始年

	小1	小2	小3	小4	小5	小6 UPSR	移動 クラス	中1	中2	中3 PMR	高1	高2 SPM
2003	開始						英語 で行 う	開始				
2004		開始							開始			
2005			開始							開始		
2006				開始							開始	
2007					開始							開始
2008						開始						

注：UPSR, PMR, SPM, STPM 試験は2003年から全て英語を含めた2言語で実施される。移動クラスは華語・タミル語媒体の小学校からマレー語中学校に進学する場合の1年間の準備クラス。

この英語による理数科教育の決定は、各方面に大きな反響と動揺をもたらしており、とりわけ華語小学校やタミル語小学校、農村地域の小学校教員から大きな反発が予想されている。就学前教育機関はこの決定を受けて、幼稚園段階での児童の英語への接触を拡大して、小学校での英語教育への準備をさせる必要に対応を迫られており、児童への負担の増加を心配する場合もあれば、すでに一部幼稚園では小学校より早く英語の授業や英語による授業を取り入れているために、「英語の重要性を認識したという点においては歓迎できる」とするケースも見られる。政府の計画している新カリキュラムも含めて、今後のマレーシアの就学前教育にも大きな影響を与えることは間違いない。

1. マレーシアにおける就学前教育

(1) 就学前教育の発展

マレーシアにおける近代的な就学前教育は、1950年代に都市部の私立セクターにおいて開始されていたが、公的な補助がなく授業料が高額であったため、限られた階層にしか普及しなかった。これは就学前教育が、華文独立中学や私立カレッジとともに、当時のマレーシアの国民教育システムの概念から除外され「ノンフォーマル教育」としての認識を受けてきたこと、そしてその結果、所轄官庁が多岐にわたったことに由来している。従って、1970年代以降推進されてきた、マレー系先住民（いわゆるブミプトラBumiputera）の社会経済的地位の向上を優先する国家政策も、就学前教育の分野には部分的にしか及ばず、地域的、民族的、社会的格差が残されてきた⁽²⁾。

表2 1980年代のマレーシアの幼稚園の公立・私立比(1981)

	機関数	クラス	教員数	児童数	クラス規模	児童/教員比
公立セクター	2,925 (76.0)	2,970 (49.4)	3,030 (48.7)	90,065 (46.0)	30.3 人	29.7
私立セクター	925 (24.0)	3,046 (50.6)	3,187 (51.0)	105,681 (54.0)	34.7 人	33.2
合 計	3,850	6,016	6,217	195,746	32.5 人	31.5

Educational Research and Planning Division, Ministry of Education, Malaysia, cited in Ling Chu Poh, 1986/87, p.64.

この偏在を改めるために、1970年代に農村開発省 (KUMAS: Ministry of Rural Development) の地域開発部 (Community Development Division) が農村地域の就学前教育を開始した。KUMASの幼稚園はTABIKA (Taman Bimbingan Kanak-kanak) と呼ばれ、4歳から6歳までの児童に就学前教育プログラムを1971年に107園で実施し、1990年代には7,000園、20万人の児童をかかえる、国内最大の組織となった。TABIKAでは1クラス35人以下の教室で、週に3時間ずつ5日間の授業を行っている⁽⁵⁾。

1980年代には国民統合局 (Department of National Unity) が郊外地域の児童への就学前教育を開始した。社会開発統合省には福祉局の管轄下に、0歳から4歳までの保育所 (child care centre) と、5歳と6歳児のための半日プログラムを提供する幼稚園 (kindergarten, pre-school) がある。現在1,000園あまりの施設が運営されている。そのほか、マレーシアの半政府機関である、FELDA (連邦土地開発庁) やRISDA (ゴム産業小農開発庁)、FELCRA (連邦土地統合・再開発庁) などが開発にともなう労働力確保のために独自の就学前教育機関を発足させたが、これらは後にKUMASの幼稚園に管理運営が委託されている⁽⁶⁾。

これらの公的努力により、表2に示すように1980年代には公立セクターが幼稚園数の76%に達したが、児童数では依然として半数以上が私立セクターに属しており、その教育環境水準にはかなりの格差が存在することが予想される。以上のような経緯により、公立セクターの就学前教育分野の所轄は、文部省 (MOE)、農村開発省 (KUMAS)、社会開発統合省、そして各州の宗教局の所轄に分かれている。

1992年、文部省はようやく就学前教育の主体的施策に着手し、就学前施設の不足する地域の既存の小学校1,086校を選抜し、そこに付属就学前プログラム (Pre-school annexe' Programme) を導入した。これはより経済的に貧しい家庭の子どもに就学前の教育機会を提供し、すべての子どもに小学校入学までに少なくとも一年間の準備教育を与えることを目標として導入された。1997年までに全国7,084校の小学校のうち、1,021校に付属就学前クラスが設置され、25,609人の児童がここに所属している。これによって国内の53%の当該年齢の児童が就学前教育を受けるようになった⁽⁶⁾。

就学前教育機関の設立において、公共セクターは農村部と都市部の貧しい家庭向けの就学前教育の機会を提供することに努力した。公立・私立、NGO立も含めて、それらが運営する就学前教育センターの数は1990年の6,960から1997年の9,605に増加した。就学前教育センターの8,638、すなわち90%は公立セクターであり、政府が設立したセンターの80%は農村地域にあり、30万9,700人の児童が学んでいる⁽⁶⁾。

表3 マレーシアの所轄機関別の就学前教育統計(1998)

設立主体	機関数	クラス数	教員数	児童数**	(構成%)
文部省	1,019	1,131	1,131*	25,708	(5.60%)
農村開発省	6,448	7,468	7,096	169,109	(36.87%)
社会開発統合省	1,110	1,110	1,110	30,676	(6.69%)
各州宗教局	182	392	888	13,312	(2.90%)
私立	1,707	7,939	11,993	199,557	(43.50%)
ABIM	310	732	900	20,343	(4.43%)
合計	10,776	18,772	21,987	458,705	(100%)

Malaysian Education Statistics, Quick Facts, 2000, 2000, p.3; (注)

*1クラス1教員と想定、**3歳から5歳の児童数

1998年現在のマレーシアにおける就学前教育機関は約1万校で、3歳以上の就学児童数は45万8千人に達しており、5歳児における就学前教育就学率は58%である。しかし今日でも文部省が関与する幼稚園や幼稚部は、マレーシアの就学前教育において機関数にして9%、児童数にして6%を占めるにすぎない。マレーシアにおける就学前教育機関の48%は私立セクターに属しており、主として政党系と宗教系、NGO系に分類される。政党系では与党系のUMNO(TADIK UMNO), MCA, MIC, 野党系ではPAS (PASTI: PAS Tadika Islamiyyah) などがあり、宗教系ではABIM(イスラーム青年同盟: Angkatan Belia Islam Malaysia), Al-Arqam, PERTIWIほかイスラーム、ヒンドゥー、キリスト教系などの幼稚園がある。そのなかではやや急進的なイスラーム系のABIMによる幼稚園が最も全国に普及し、独自のマレーシア・イスラーム・カリキュラムを導入してTadika Islam もしくはTASKI (Taman Asuhan Kanak-kanak Islam) と呼ばれている。

公立幼稚園も私立幼稚園もほぼ同じガイドラインに従っているが、公立のほうが児童の基礎技能、社会化や小学校への準備の側面が強調されるのに対して、私立幼稚園はアカデミックな内容とピアジェ、モンテッソーリ、フレーベルなどの特定の教育理論やデザインを用いたもの、あるいはイスラーム、キリスト教、シーク教など特定の宗教的教義や世界観を反映した教育アプローチが見られる。授業料は宗教系私立幼稚園の月60MR (1MR≒30円) から大学の授業料より高いものまで様々である。また私立幼稚園の授業言語は様々で、後にみるようにマレー語、英語、華語、タミル語、カダザン語、そしてそれらの組み合わせなど多彩である⁽⁸⁾。

幼稚園の教員については現時点で明確な資格は規定されておらず、小学校卒業、宗教学校卒業、前期中等学校卒業 (SRP)、高校卒業 (SPM)、そして少数ではあるがフォルム6卒業 (STPM) 以上の教員もいる。就学前教育は子どもの発達にとってきわめて重要であり、本来すぐれた教員と高度な知識を要求する段階であるが、実際にはそうした教員は幼稚園に就職することを好まない。さらにこの問題は幼稚園の教育の質と授業料などのコストに大きな格差をもたらすだけではなく、優秀な教員が都市部の私立の機関に集中することにより、地域的な格差や社会経済的格差が教育の質の格差につながるという問題を引き起こす。

このような格差に対処するために、幼稚園の運営主体や所轄省庁については従来どおりの多様性を維持しながら、登録と管理運営、カリキュラム開発、教員養成などに関しては、文部省に一元化し、その質の保証を確実にしようという動向がある。なかでも就学前教育のカリキュラムとそのガイドラインは、文部省のカリキュラム開発センター (Pusat Perkembangan Kurikulum: PPK=CDC) によって何度か開発されてきた。

(2) 国民就学前教育カリキュラム (Kurikulum Kebangsaan Pra-sekolah)

これまでに文部省から出された就学前教育ガイドラインは1973年、1986年、1993年に改定されてきた。1993年の改定は前年の付属就学前プログラムの実施によって見なおされたものである。1996年の「新教育法」は就学前教育の分野にも多大なる影響を与えた。この法律によって、初めて就学前教育が国家教育システムの一部として認知され、同時にすべての公立・私立の就学前教育機関は国家の就学前教育に関するガイドラインに従うことが義務づけられた⁽⁹⁾。

1996年教育法によれば、就学前教育 (pre-school education) とは、「4歳から6歳までの児童のための教育プログラムである」とされ、「幼稚園 (Kindergarten) とは10人以上の児童のいる就学前教

育機関である」と規定されており、保育所 (Child Care Centre) はこの法規の規制には含まれない。(25条)「すべての幼稚園のプログラムと活動は、文部大臣によって認められた幼稚園のためのカリキュラムガイドラインに基づいて行われる。」(22条)そして「幼稚園では国語が授業用語として用いられるか、そうでない場合は国語は必修科目として教えられる」(23条)とされている⁽¹⁰⁾。

就学前教育カリキュラム／ガイドラインは、マレーシアの国家原理 (ルクヌガラ:Rukun Negara: 1969), 国家教育哲学 (NPE: 1988), マレーシア2020発展構想 (Vision2020: 1991) などの国家構想・政策を背景に開発・改定され、今回の2003年国民就学前教育カリキュラム (Kurikulum Kebangsaan Prasekolah: Preschool National Curriculum) に結実しようとしている。PNCへの連続性と新たな展開を考察するために、過去の1986年ガイドライン、1993年ガイドラインとの比較を含めて、その概要を見てみたい。

新しい国民就学前教育カリキュラム (PNC) は2002年現在、カリキュラム開発センターを中心に、試案を編集し、翌年の実施に向けて準備中である。政府の小学校の理数科目を英語で教えるという方針を受けて、幼稚園と保育所の児童に英語への接触を促進する目的で、統合コンポーネントの中に英語による授業を組み込んでいる。ただし特定の言語を教えるのではなく、特定の言語を使って教えるということを想定している。CDCはカリキュラムがあまりにアカデミックになることを憂慮しており、そのためにCDCは幼稚園用の教科書を編集せず、民間の教科書や参考書の使用は学校に任せている⁽¹¹⁾。

PNC(2003)は児童発達理論、児童心理学の基礎のうえに、近年の多面的知性(Multiple Intelligence), 「こころの知能指数」(Emotional Quotient), E-ラーニング (E-learning), そして到達度本位型アプローチ (Outcome-based approach) などの概念を考慮に入れてデザインされている。カリキュラムは教育と学習の到達度に従って、子どもが何を知り、理解し、行い、そして実践すべきかに力点を置いている。学習の到達目標は階層的に次第に複雑化するように設計されている⁽¹²⁾。

カリキュラムの一般目標としては、1996年のガイドラインでは9つの目標が、9つの実践領域(カッコ内)に対応して設定されていた。すなわち、(1)愛国への感情(国民性教育)、(2)(イスラーム教徒児童に対して)日常生活におけるイスラーム的価値の実践(宗教教育)、(3)高貴な価値の実践(道徳・精神教育)、(4)国語としてのマレー語の尊重・活用とコミュニケーション技能の向上(国語)、(5)第2言語としての英語力の日常生活での獲得(英語)、(6)健康の基礎としての身体活動の尊重(体育)、(7)積極的な態度と性格の形成のための自己概念の発達(社会性教育 Socio-emotional)、(8)知的好奇心、認知能力、問題解決能力の育成(認知発達)、(9)創造性と審美能力の育成(芸術教育)、である⁽¹³⁾。

これをまず初期の1983年ガイドラインと比較すると、同じく9つの目標が設定されていたが、そこでの(3)国語の尊重・活用と(8)コミュニケーション能力の向上という2つの目標が1996年の(4)の目標に統合されている。それによって減った1項目に(5)の英語力の獲得が新たに加えられ、この時期からすでに就学前教育レベルでの英語の重要性への認識があったことがわかる⁽¹⁴⁾。就学前教育の活動における簡単な英語の使用が、政府文書で言及されたのは、第7次マレーシア計画が最初である⁽¹⁵⁾。

続いて、これを今回計画されているNPC(2003)の目標草案と比較してみると、1996年の9つの目標すべてが若干の表現の修正を経て収録されているのに加えて、(3)華語・タミル語幼稚園で

の華語・タミル語の授業用語としての適切な活用、の1項目が加えられて、合計10か条の目標が提示される予定である。これらの項目の順番は若干入れ替わって(1)(4)(華語・タミル語)(5)(6)(3)(8)(7)(6)(9)の順となっている。(3)華語・タミル語の活用の項目の追加は、前回の英語力の項目の追加と異なり、すでに私立幼稚園では実践されてきたことであるので、教育領域への力点の変化というよりは、私立幼稚園の存在と役割の積極的な認知の意向が表明されたものととらえるべきであろう⁽¹⁶⁾。

今回予定されている新カリキュラムでは、科目ではなく技能領域としての6つのコンポーネントが設定されており、より統合的で学際的なアプローチが強調されている。それらは(1)言語およびコミュニケーション、(2)認知的発達、(3)精神的・道徳的発達、(4)社会的発達、(5)身体的発達、(6)創造的・審美的発達の6つのコンポーネントである。学習は統合された形で行われ、数学や理科や識字技能の発達は別々にというよりは同時に起こり得るとされている。高品質のプログラムを提供するために、児童の成長に対応した学習環境と内容を準備し、個々の児童の個人差に可能なかぎり配慮した学習内容と方法を想定している⁽¹⁷⁾。

就学前教育カリキュラムの時間的規定は、1日の授業時間は3時間ないし3時間半で週5日、従って1週間の授業時数は15ないし17.5時間とされていた。科目として時間規定があるのは、国語(国語を授業用語としない幼稚園)、英語(英語を授業用語としない幼稚園)、そしてイスラームおよび道徳の3科目で、それぞれ少なくとも週2時間以上の授業が要求されていた。それ以外の領域については科目的規定はなく、統合的に行われることになっている。また授業における活動形態のガイドラインとしては、1日の授業時間が3時間半の場合、クラス活動90分、グループ活動60分、自由活動30分、休憩・お茶30分という目安が示されていた。1クラスの児童の人数は最大で25人である⁽¹⁸⁾。

ここでは、英語カリキュラムを例に取り上げて、その変化についてみてみたい。前カリキュラムでは英語の教育内容を、日常生活における会話技能(oral skills)に限定しており、8つの目標が指定されていた。すなわち、(1)簡単な英単語の認識、(2)簡単な英語の指示を理解し従う、(3)様々なメディアにおける絵を刺激教材にして物語を話す、(4)簡単な会話を交わす、(5)簡単な詩を朗読する、(6)散文、韻文、会話文など様々な形態の文章を聞き、応答する、(7)簡単な歌を歌う、(8)挨拶やお礼、お願い、お詫びなどの簡単なやりとり、であった⁽¹⁹⁾。

新カリキュラムでは、英語の目標項目は4つに統合されているが、会話技能(リスニング・スピーキング)についても若干の高度化が見られるほかに、簡単な単語や文章の読解と筆記の技能が加えられ、いわゆるリーディング(reading)とライティング(writing)の技能が加えられたことが大きな特徴である。すなわち、(1)積極的に聞き、理解する、(2)簡単な英語で自分を表現する、(3)独力で簡単な単語や文章を読む、(4)簡単な単語や文章を筆記する、と規定されている⁽²⁰⁾。これらをまとめると表4のように整理できる。

表4 就学前教育ガイドライン、カリキュラムの言語・宗教に関する扱いの比較

	1986 年ガイドライン	1993 年ガイドライン	2003 年国民カリキュラム
基本目標 における 言語目標	(4) マレー語とその 他言語 (英語、アラビ ア語、華語、タミル語) を科目として規定	(4) 国語としてのマレ ー語の尊重と向上 (5) 第二言語としての 英語を日常会話で使用	(2) 国語の言語技能向上 (3) 授業用語としての華語、 タミル語の向上 (4) 第二言語としての英語 の発達
英語技能 に関する 記述	記述なし	日常生活での会話技能	簡単な単語・文章の聞き取 り理解、口頭表現、読解、 筆記
宗教教育 に関する 単元	1.信仰箇条, 2. 信仰戒 律, 3. 品性人格, 4. 伝記, 5. 聖クルアーン, 6. 朗 誦/Litany	1.信仰箇条, 2. 信仰戒 律, 3. 伝記, 4. 道徳, 5. 聖典朗誦指導, 6. アラビア語	1.信仰箇条, 2. 信仰戒律, 3. 伝記, 4. 道徳, 5. アラビア語と Jawi 表記

出典: GL(1986): Shahril and Habib 1999, p.46, pp.53-54; GL(1993): (13)CDC, 1998, p.3, pp.7-8; PNC(2003): (4)CDC, 2002?, p.6; (16)CDC, 2002, p.91.より筆者が整理。信仰箇条 (akidah/aiqadah)、信仰戒律(idabah/ibadat)、品性人格(budi pelerti)、朗誦(meladaz/tilawah)、伝記(sirah)、道徳(akhlak)、Jawiとはマレー語のアラビア文字表記法を指す。

また政府は近年国家教育システムの一部として認知された、私立高等教育とならんで、就学前教育分野でも、精神的な価値教育の強化を推進しており、この新カリキュラムでも、イスラーム的価値観（イスラーム教徒児童向け）と道徳価値観が、ひとつのコンポーネントを形成して強化されることになるというが⁽²⁰⁾、シラバスにみる単元数には大きな変化は予定されていない。

国民就学前教育カリキュラムの試案(2002)にみられる、英語技能のガイドラインの概要は以下のとおりである。実際にはこの表には、それぞれの<技能領域>と<学習内容>について、具体的に<学習活動例>と<教材>の提案が付記されているが、本稿では省略する。

カリキュラムの試案では、これらの技能領域と学習内容案について、それぞれいくつかの活動案と教材案が、右頁コラムの対応する位置に記載されている。例えば、上記技能領域2(6)の「簡単な物語を話す」について、①の内容に関して、「<show and tell>の手法を用いて、子どもたちは好きなおもちゃなどを持ち寄って、そのことをまわりの子に話す」「写真や絵を使ってベットについて話す」「ハリラヤ(イスラーム正月)や春節(中国正月)、ディーパーバリ(インド系祭日)などのお祭りについて<Circle Time>を用いて話す」などの活動が記載され、その右に使用する教材として、「子どもが持ちこむおもちゃ」「写真や絵、ポスターなどのプロップ」「写真や小さな場合は実物」などの具体物や歌の種類、文章の例などが記載されている⁽²²⁾。

児童の学習と発達の評価についても、新カリキュラムではこれまでにない体系的な評価システムが推奨されている。評価プロセスの前提として、評価計画・評価項目の設定、システムティックな観察、子どもの作品等の評価、学習・発達の記録の編纂などが規定されている。とりわけ学習・発達の記録については、観察チェックリスト(Senarai Semak)、出来事記録(Rekod Anekdote)、継続的記録評価(Rekod Berterusan/Running Record)などの各種の情報をポートフォリオ型の総合ファイルに編纂してゆくことが指導されている⁽²³⁾。

表5 国民就学前教育の英語カリキュラムの活動試案(2002) (抜粋:技能領域と学習内容案)

1 リスニング技能	
<技能領域>	<学習内容案>
1(1)類似音の聞き取りと認識	①同音で始まる単語の認識 ②同音で終わる単語の認識
1(2)音の聞き分けと認識	①異なる音で始まる単語の識別 ②異なる音で終わる単語の識別
1(3)簡単な単語の意味の理解	①発声された単語を聞き、実物を指さす ②発声された単語を聞き、絵を指さす
1(4)英語の指示を聞き従う	①英語で簡単な指示を聞き、実行する ②ゲームで指示された行動を実行する
1(5)簡単な歌、詩、物語、会話を聞き、反応する	①歌やリズムを聴き、それに反応する ②歌、リズム、詩、物語を聞き、意味にそって反応する
2スピーキング技能	
2(1)児童、教員、社会人とコミュニケーションする	①ジェスチャー、アイコンタクト、表情などに対して英語で反応する ②挨拶、感謝、質問などの簡単なやりとりをする ③簡単な会話をする
2(2)簡単な単語を使う	①体の部分を英語で言う ②家族のメンバーを英語で言う ③まわりにある物を英語で言う ④知っている物語や詩、歌などの名前をあげる
2(3)簡単な文章を言う	①好きな食べ物や遊びなどの経験について話す ②天気について話す ③物語の知っている文章を発表する
2(4)簡単な質問をする	①好きな食べ物や遊びについて他の児童に尋ねる ②目に入った物について質問をする ③聞いた物語について質問する
2(5)歌を歌い、詩やリズムを暗唱する	①歌を歌いながらアクションする ②簡単な詩やリズムを暗唱する
2(6)簡単な物語を話す	①よく知っていることについて話す ②人形や本などを使って物語りを英語で話す
2(7)知っていることをドラマ化する	①日々の出来事をロールプレイで演じる ②知っている物語をドラマ化する
3リーディング技能	
(1)～(6)<省略>	
4ライティング技能	
4(1)ライティングの準備	①手と目の連携を必要とする活動を行う ②大きな動作と細かい動作を使って、線と円を描く ③文字を書く時の回転や上下動の手の動きを練習する
4(2)ライティング技能	①アルファベットを書く ②簡単な単語を書く ③簡単な文章を書く

出典：CDC, 2002, *Huraian Kurikulum Kebangsaan Prsekolah: Edisi Percubaan*, CDC Ministry of Education Malaysia, p.91-117. (試行版によるので確定内容ではない)

2. マレーシアにおける私立幼稚園の動向と実践

文部省私立教育局の統計によれば、2001年現在、私立の幼稚園は2,461園で、10,031人の教員と26万4195人の児童が在籍しており、児童数にして全幼稚園児童の過半数が学んでいる。私立幼稚

園に通う子どもは、表6に見るように、華人系が過半数を占めており、また表7に見るようにその授業言語（媒体）は華語が42%、英語が35%、マレー語が10%であるが、そのほかにバイリンガルの幼稚園もあわせて10%程度存在している。また地域的な分布では大半(74%)が都市部に集中していることがわかる⁽²⁴⁾。

表6 1980年代のマレーシアの私立幼稚園の民族別児童数(1980) ()内は全体に対する%

	マレー半島	サバ州	サラワク州	合 計
ブミブトラ	13,128 (13.4)	2,438 (2.5)	2,354 (2.4)	17,920 (18.3)
華 人	56,063 (57.5)	6,518 (6.7)	8,284 (8.5)	70,865 (72.6)
インド系	7,211 (7.4)	91 (0.1)	54 (0.1)	7,356 (7.5)
その他	966 (1.0)	384 (0.4)	71 (0.1)	1,421 (1.5)
合 計	77,368 (79.3)	9,431 (9.7)	10,763 (11.0)	97,562 (100)

Ministry of Education, Malaysia, cited in Ling Chu Poh, 1986/87, p.60.⁽²⁵⁾

表7 1980年代の私立幼稚園の地域別授業言語(1981) ()内は全体に対する%

地 域	マレー語	英 語	華 語	タミル語
都市部	7,166(6.0)	30,652(29.0)	29,944(28.3)	113(0.1)
農村部	2,333(2.2)	5,232 (5.0)	10,973(10.4)	79(0.1)
開拓村	653(0.6)	1,479 (1.4)	3,419 (3.2)	—
合 計	10,142(9.6)	37,363(35.4)	44,336(42.0)	192(0.2)

地 域	マレー語/英語	マレー語/華語	英語/華語	その他	合 計
都市部	2,554(2.4)	—	7,411 (7.0)	58(0.05)	77,888(73.7)
農村部	129(0.1)	280 (0.3)	3,175 (3.0)	—	22,201(21.0)
開拓村	41(0.0)	—	—	—	5,592 (5.3)
合 計	2,724(2.6)	280 (0.3)	10,586 (10.0)	58(0.05)	105,681 (100)

Education, Research and Planning Division Ministry of Education Malaysia, cited in Ling Chu Poh, 1986/87, p.58.⁽²⁶⁾

本稿では、このうち、イスラーム系団体が運営する幼稚園と、華人系の幼稚園について英語教育を中心に事例を検討し、最後に華人系幼稚園教師の現職訓練機関についてひとつの試みを紹介する。

(1) イスラーム系私立幼稚園の英語教育 TASKI ABIM (イスラーム青年同盟幼稚園)

ABIM (イスラーム青年同盟) とは、1969年の民族間暴動に対して、マレー系およびイスラーム系学生が自らの自覚と団結を呼びかけて起こした政治的宗教運動である。伝道主義的であるが、必ずしも原理主義的ではなく、国内華人の経済支配や、与党の政治腐敗などに批判的である。全国に5万人の会員を持ち、前副首相アヌワール・イブラヒムもその中心的人物である⁽²⁷⁾。

ABIMは教育をその重要な活動のひとつと位置付けており、1971年には同朋基金(Yayasan Anda)により、私立のイスラーム中等学校(Sekolah Menengah Islam) 1校と小学校(Sekolah Rendah Islam)12校を設立しており、独自のイスラーム小学校カリキュラム(KSRI : Kurikulum Sekolah Rendah Islamia)を開発し、公教育による世俗・宗教折衷型教育に満足しない、あるいは適応できない児童に独自のカリキュラムによって教育を行っている。しかしその教育的焦点は幼稚園レベ

ルにあり、全国に400園の幼稚園と7万人の児童、2,000人の教員をかかえ、そのほかにABIMのメンバーによる個人的経営の幼稚園や保育所が多数存在している⁽²⁶⁾。

イスラーム青年同盟幼稚園 (TASKI) は、4歳から6歳までの児童に、KSRIに準拠したイスラームの世界観に基づいた教育環境において、すべての科目や教育活動を行い、知的・精神的・身体的・情緒的にバランスのとれたムスリムとして育成することを目指している。授業料は月100MR程度で、クラスサイズは20人、一般的なTASKIでは教育は教師中心的な講義である。また公立の教員養成カレッジを卒業した学生に対して、イスラーム的教育訓練を与えるセンターも存在している⁽²⁷⁾。

ABIM幼稚園では、中心的な授業言語はマレー語であるが、授業の半分近くを占める聖クルアーン (コーラン) の学習にアラビア語を用いる一方で、国家の枠を越えたムスリムの連帯と知識の吸収・発信をめざす立場から、英語の重要性には早くから着目し、政府のマレー語中心の教育政策が全盛期の頃から、すでに英語教育を導入していた⁽²⁸⁾。

TASKIで使用されている幼稚園向けの英語の教科書を見てみると、次のような特徴が見られる。まず各章の冒頭にメッセージや副題が朱書されているが、そのおよそ半数は聖クルアーンの章句の英訳である。児童の学習のレベルよりも章句の引用の正しさが優先されているようで、かなり難しい単語や関係詞構文なども含まれている。(和訳上敬語表現を用いたが、英文にこのような敬語表現は含まれていない) 以下は章と副題のリストである。

- (1)挨拶(1～3)「ムスリムは他のムスリムに会ったとき、必ず平安を祈る挨拶をします。」
- (2)自己紹介
- (3)教室の物(1～3)
- (4)数(1～4)
- (5)私たちの体(1～4)
- (6)男女の区別(1～2)「アッラーは私たちをつがいに創造されました。」
- (7)色(1～2)「色とりどりの世界は、アッラーの偉大さの徴である。」
- (8)自然「あなたは誤りのない、アッラーの創造物を周囲に見つけられますか。」
- (9)果物(1～2)「アッラーはあらゆる味と形の果物をおつくりになりました。」
- (10)動物(1～2)「アッラーは人間の便宜のために動物をおつくりになった。」
「たとえ野生であっても、アッラーの創造には目的がある。」
- (11)簡単な前置詞(1～2)
- (12)家族のメンバー「アッラーは私たちの両親に慈悲深い。」
- (13)一日の時間(1～4)「休息のための夜をおつくりになったアッラーは偉大である。」
- (14)一週間(1～3)「夜と昼の繰り返しは、それをお定めになったかたの徴である。」
- (15)天気・簡単な単語

そのほか、挿絵にはムスリムの服装をした児童の絵やモスクなどの宗教場面、マレー農村の家屋や田畑の場面が多く登場し、その学習者の環境には配慮がなされている⁽²⁹⁾。教科書から推測される授業内容や方法の情報には限りがあるが、少なくとも印刷物を用いている限り、読解と筆記の要素はかなり大きいと思われ、特に農村部の小規模園では実用的な英会話の実践には困難が予想される。

(2)華人系私立幼稚園の英語教育⁽³⁰⁾

一方、華人系の幼稚園には、園内のすべての環境を英語を媒介語として、自然な環境で英語を教えているものがある。ペラック(Perak)州イポー (Ipoh) 市のHome Sweet Homeは華人住宅地に1987年に創立された、全イポー市でかなり知名度の高い幼稚園である。全日制と半日制のコースがあるが、ほとんどは全日制である。給食、おやつ、テキストなどを含めての保育料は月額MR280(約1万円)となる。

対象年齢は、現在では2歳から6歳までの5年級で、下の学年からそれぞれB1、B2、K1、K2、K3と呼んでいる。このHome Sweet Homeは少人数制度を強調する幼稚園で、B1とB2はそれぞれ約10名で、K1、K2、K3の場合はそれぞれ18名園児がいる。そして、各クラスに担任教員が1名いる。華人系住宅地に置かれるため、園児の全てが華人の子どもである。

職員は、園長1人、教員5人、洗濯・給食要員1人である。教員5人の中4人は華人系で、残り1人はインド系である。5人とも高卒である。この幼稚園の職員のうち保育経験者が1人で、それ以外の者は全て未経験者である。新しい教員は、就任後1ヶ月間、園長自身による園児保育研修に参加することになっている。幼稚園の創立者ヨウ園長は元英語教師として、14年間第2言語としての英語の教育TESL(Teaching English as a Second Language)の経験を持っているので、英語教育に力を入れているのである。

(b) 時間割

Home Sweet Homeのカリキュラムは月曜から金曜までの週5日が、朝9時から午後5時までの全日、土曜日が半日のプログラムで、語学以外はすべて英語で行われるので、時間割に英語の時間はなく、例えば読書というのはアルファベットの学習である。1時限は30分で、4歳児クラスから華語(中国語)が、5歳児クラスからマレー語の授業が1時限ずつ加わって、上級学年は3言語を学ぶことになる。表8から表10がその週間時間割である。

表8 Home Sweet Home幼稚園の2歳と3歳の時間割

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
9:00～9:30	戸外活動	戸外活動	戸外活動	戸外活動	戸外活動	戸外活動
9:30～10:00	遊び	塗り絵	一般知識	読書	唱歌	読書
10:00～10:30	スナックタイム					
10:30～11:00	唱歌	英語TV	唱歌	英語TV	一般知識	英語TV
11:00～11:30	工作	唱歌	遊び	塗り絵	遊び	物語
11:30～12:00	図書室	一般知識	図書室	算数	読書	塗り絵
12:00～12:30	シャワータイム					
12:30～13:30	給食					
13:30～15:30	昼寝					
15:30～16:00	スナックタイム					
16:00～17:00	物語	ゲーム	唱歌	童謡	遊び	

表9 Home Sweet Home幼稚園の4歳の時間割

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
9:00～9:30	戸外活動	戸外活動	戸外活動	戸外活動	戸外活動	戸外活動
9:30～10:00	図書室	読書	図書室	読書	図書室	読書
10:00～10:30	スナックタイム					
10:30～11:00	物語	工作	算数	英語TV	華語	算数
11:00～11:30	英語TV	童謡	物語	塗り絵	手芸	塗り絵
11:30～12:00	唱歌	遊び	唱歌	音楽	唱歌	英語TV
12:00～12:30	シャワータイム					
12:30～13:30	給食					
13:30～15:30	昼寝					
15:30～16:00	スナックタイム					
16:00～17:00	物語	ゲーム	唱歌	童謡	遊び	

表10 Home Sweet Home幼稚園の5歳と6歳の時間割

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
9:00～9:30	戸外活動	戸外活動	戸外活動	戸外活動	戸外活動	戸外活動
9:30～10:00	読書	図書室	読書	図書室	読書	図書室
10:00～10:30	スナックタイム					
10:30～11:00	算数	一般知識	工作	華語	唱歌	英語TV
11:00～11:30	英語TV	唱歌	童謡	音楽	童謡	遊び
11:30～12:00	塗り絵	遊び	英語	一般知識 (道徳)	マレー語	音楽
12:00～12:30	シャワータイム					
12:30～13:30	給食					
13:30～15:30	昼寝					
15:30～16:00	スナックタイム					
16:00～17:00	物語	ゲーム	唱歌	童謡	遊び	

(c) 英語教育の方法

Home Sweet Home 幼稚園では、英語以外の言葉を話すのを禁じており、華語とマレー語は、それぞれの言語の授業でしか話す事ができない。園内では、独身教員のことをMiss、既婚教員のことをMrs.と呼ぶ。園児はお互いを英語発音名で呼び合う。園児達は日常生活の習慣であるトイレ、遊び、食事、TV鑑賞などの活動を通して日常の英語を学習するのである。華語やマレー語以外の算数、音楽、道徳や工作などの活動も英語で行われる。

新入りの園児達は、母語を話すことが禁じられるため、園内の生活に馴染まない一時期がある。そのため、新入りの園児が母語を話す際、教員はまず園児の表現したい事を理解し、そしてその表現したい事を再び英語でその園児に示す。さらに、その言葉を園児にもう一度言わせるようにする。手洗い、水飲みや玩具遊びの様な日常生活の中では、教員は身体言語を通じ、あるいは同じ行動を重複させ、英語の単語や句を覚えさせるのである。また、園内活動の中で園児のレベル外の単語が出現した場合、教員はもっとも使用されているトータル・フィジカル・リスpons (Total Physical Response :TPR)⁽³¹⁾という第2言語教授法を用いる。

(d) 教科書と設備

Home Sweet Home はマレーシアの大半の私立幼稚園と同様で、幼稚園専用の教材は使用していない。そして、園内の各クラスでは、持ち帰り禁止の学習用テキストが配られるため、園児自身のテキストはない。また、宿題の場合は、K2やK3クラスのみ、英語、華語、マレー語の宿題付テキストがあるだけで、それ以外のクラスはない。テキストは、Lady Bird系の物語以外は、ほとんど地元で編集し出版されたものである。園内のテキストは、マレー語、華語および算数テキスト以外は全て英語で編集されたものである。

Home Sweet Home 幼稚園は、5つの教室、3つのシャワールームとトイレ、1つのキッチン、音楽室と図書室がある。各クラスは、小さい黒板、物置（カバンと水筒用）と旧式クーラーがある。B1, B2 のクラスでは椅子とテーブルはない。K1, K2, K3 の場合では、長方形のテーブルが2つあり、各テーブルに椅子が8客ついている。最大のクラスはK3で、クラス内の3つ長いテーブルが、黒板に対して平行並びになっている。また、クラスの角には、玩具の収納スペースがある。全てのクラスの壁には、人間の体や野菜果物などの英単語付のポスターおよびカレンダーが貼ってある。園の建物の壁には一面に動物、花およびアニメの絵柄が描かれている。給食は日本と同様に各クラスで行われる。図書室内の図書はほとんどLady Bird系のもので、その収納方法は洗濯バサミで挟み、ひもを通して壁に引っ掛ける。そのため、見栄えがよくなり整理整頓にもなる。図書室は順番で使われるが、室外での読書は許されない。音楽室では、ピアノが1台と数種類の楽器があり、椅子とテーブルはおかれていない。広い庭にはすべり台、シーソーおよびブランコが各1つ設置されている。そして、戸外活動は広い庭で行われる。

(3) 幼稚園教員の再訓練

マレーシアではマラヤ大学(UM), マレーシア理科大学(USM), マレーシア・プトラ大学(UPM)の3大学に就学前教育の専門養成コースがあるが、先住民族優遇政策により、華人学生の大学入学の門戸が限られているために、これらのコースで学位を取得して幼稚園の教員になるものはきわめて少ない。そのためマレーシアの華人組織は1970年代から、華人系与党のMCA (Malaysian Chinese Association: 馬華公会) の婦人部を中心に、幼稚園の教員を訓練するノンフォーマルな機関の設立を主張してきた。マレーシア就学前教育学院 (Institute CECE: Courses in Early Childhood Education) はそうした声を背景に、幼稚園・保育所の教員に対して2年間の現職教育を提供する機関として1993年にMCAの多目的訓練センター内に設立された。専門的訓練を受けることなく幼稚園の教員や児童ケアセンターなどの保育士になった者に対して訓練の機会と資格を与える機関である。

1996年12月にCECEは政府の私立高等教育機関 (IPT)として登録され、1999年10月に正式の開幕式が行われた。2001年8月クアラルンプール郊外にある、華人系カレッジ、トゥンク・アブドルラーマン・カレッジ(TARカレッジ)の敷地内に3階建ての新校舎が完成したが、TARカレッジの付属機関ではなく独立した非営利の有限会社である。

1階に実習施設として幼稚園(Tadika CECE)と保育所(Nursery: 0-4歳), 保育センター(Child Care Center: 4-6歳)を運営している。児童は近隣の家庭の子どもとTARカレッジの教員の子どもなどを保育し、各教室の定員は10名である。幼稚園の授業はマレー語と英語は独立した科目で、それぞれの言語で教えられる。そのほかの算数・理科・社会は統合科目として教えられている。

2・3階はCECEの講義・事務練で、教室のほか多目的ホール、講演室、理科・数学室、図書室、教職員室、医務室などがある。

CECEのコースは現在、6ヶ月の初級課程(BC)、6ヶ月の中級課程(IC I・II各3ヶ月)、6ヶ月の上級課程(AC)で合計2年間(フルタイムの場合)の就学前教育課程を提供し、それぞれの課程で就学前教育士証書(pre-school educator certificate: 初級・中級・上級)を授与している。この学位に加えて、SPM資格と5年間の教育経験をもって、幼稚園の運営資格を取得できる。また幼い子どもをもつ両親を対象に夏休みなどの短期プログラムも実施している。

フルタイムのスタッフは17人、上級講師は12人で、そのほかに非常勤講師、地域活動指導者、幼稚園教員などのスタッフがいる。授業形態は、講義形式、個別指導(英語、華語、マレー語の3言語から選択可能)、学生セミナー、教育実習、マイクロ・ティーチングなど様々な形式がある。

2001年度の受講生は250名で、首都圏のほか、ジョホール州、スランゴール州など全国から学生を受け入れ、8年間で1243名の卒業生を輩出している⁽³²⁾。また1993年からオーストラリアのEdith Cowan UniversityはCECEのコースを認定し、3年間の25単位の学位コース(Bachelor of Arts in Early Childhood Studies)のうちの9単位と入学資格を認定しており、10年間で70人が履修している(CECE-ECU Connection)⁽³³⁾。

CECEのコースの特徴は、児童中心型方法論(Child-centered Methodology)と統合型方法論(Integrative Methodology)である。前者は児童の全人的成長に関する心理学的、社会学的研究を中心としたもので、(i)発達および児童心理学、(ii)早期児童教育原理・実践(通文化的カリキュラム)、(iii)文化および発達段階別カリキュラムを含んでいる。後者はコア科目として、(i)言語的・視覚的芸術表現、(ii)算数、理科、科学技術(科目および統合科目の一部として)、(iii)保健体育と表現活動、(iv)カリキュラム横断的な言語および文字学習、(v)社会および環境との関係理論、の5つを設定している。そしてこの二つの教育原理は遊びという学習過程の重要性を強調する。受講者は遊びの方法論についての小グループ活動や個人的課題を与えられ、児童の発達にとっての遊びの必要性について理解する⁽³⁴⁾。

前述のとおり、2002年現在文部省は英語による理科・算数の授業や、6つのコンポーネント(領域)、児童中心型の教育を取り入れた新就学前教育カリキュラムの実施を計画しているが、CECEではそれらの教育アプローチはすでに以前から取り入れており、特にそれに合わせたカリキュラム改革などは予定していないという⁽³⁵⁾。

結 語

マレーシアにおける就学前教育は、その中央集権的な教育システムにおいて、これまで最も政府の規制を受けない分野のひとつであった。規制を受けないということは、政府の統合主義的な圧力から比較的自由であり、教育の方法、内容、言語、課程において、規制の少ない自発的实践が可能に限られた分野でもあった。宗教や民族問題にかかわる自由な議論が制限されている社会において、教育家や実践家、特定の宗教団体や民族系団体も、幼稚園を中心としたこのレベルで、自らの信念や理論に基づく教育を実践することができた。しかしそれは規制が少ないと同時に政府による補助も少ない有償の教育が中心であり、裕福な家庭の子どもを集めることになり、結果

的に民族間の経済的・教育的格差を助長する方向に機能していた。またそのために教員や保育士の資格は低く、社会的認知も遅れていた。

マレーシアの公教育における多様性の問題は、民族的・言語的権利の問題にあまりに多くの焦点があてられ、そこでの議論や対立が教育発展の中心的な軸として展開してきたために、逆に教育方法や理念などのそれ以外の多様性に、マイノリティを含めた国民の関心があまり及ばない、というパラドックスが生まれた。例えば小学校レベルでは、マレー語、華語、タミル語という3つの教授用語による独立の6年間の学校の並立を維持するかどうかという問題は、常にマレーシアの教育問題の焦点であり、国民統合と民族アイデンティティの葛藤の現場となってきた。そこで民族言語による小学校が維持されたことをもって議論が収束し、公立学校のカリキュラムはナショナル・カリキュラムに統一され、教員が新たな実験や教育的実践を行う意欲や熱意が大きく阻害されてきた。

マレーシア政府が近年、就学前教育を私立高等教育機関とともに、公教育体系に位置付けたのは、(1)これらの特定の宗教や理論に基づく幼稚園教育が、それにかかわる政治的運動の温床として利用されはじめたことを警戒したこと、そして(2)グローバリゼーションの潮流に伴う、優秀性への国際的な競争の波が小学校にまで押し寄せ、その影響を受けて就学前教育も、その準備段階としての変化を余儀なくされたことが背景と考えられる。

政府は1986年と1993年に就学前教育のガイドラインを発行しているが、新たに2003年からの実施にそなえて国民就学前教育カリキュラム(NPC)を開発してきた。これにより幼稚園や保育センターの教育の内容が均質化し、質が向上すると同時に、母語、英語、道徳・宗教教育についての細かいシラバスが規定され、これまでの比較的自由な教育実践や実験の場がかなりの部分失われることになりそうである。また政府は就学前教育の内容があまりにアカデミックに片寄らないように配慮はしているが、その詳細な教育規定から見る限り、児童の負担は増加し、大きな教育的圧力に直面することは間違いない。そしてそれは、就学前教育を受けるものと受けないものの教育的格差をさらに拡大することにもなるだろう。

[出典および説明註]

- (1) *Utusan Malaysia*, 2002/7/21, 'Tiga peringkat Bahasa Inggeris – Sains, Matematik di tahun 1, tingkatan 1 dan 6 rendah mulai 2003', (Arkives Utusan Online: <http://www.utusan.com.my> (2002/7/21))
- (2) Ling Chu Poh, 1986/87, 'Some significant aspects of inequalities in pre-school education in Malaysia and their implications', in *Masalah Pendidikan*, Vol.12, pp.53-72; Shahril @ Charil Marzuki and Habib Mat Som, 1999, *Isu Pendidikan di Malaysia: Sorotan dan Cabaran*, p.25, Utusan Publications, Kuala Lumpur.
- (3) <http://members.tripod.com/~kemas-malaysia/tadika.htm> (2002/9/10)
- (4) CDC (Curriculum Development Centre), undated (2002?), *Pre-school Education in Malaysia*, a paper produced from CDC, pp.2-3; Shahril and Habib 1996, *op. cit.*, p.26.
- (5) Government of Malaysia, 1991, *Sixth Malaysia Plan 1991-1995*, pp.170-171; Ministry of Education Malaysia, 1997, *Perangkaan Pendidikan: Maklumat Umum Sekolah Seperti pada 6 Januari 1997*, p.8.
- (6) Haji Azmi bin Zakaria, 2000, 'Educational Development and Reformation in the Malaysian Education System: Challenges in the New Millennium', in *Journal of Southeast Asian Education*, Vol.1, No.1, pp.113-133; p.119.
- (7) Hussein Hj. Ahmad, 1993, *Pendidikan dan Masyarakat: Antara Dasar, Reformasi dan Wawasan*, Dewan Bahasa dan Pustaka, p.386.

- (8) *Ibid.*, 1993, p.389
- (9) CDC, 2002?, *op. cit.*, pp.3-4.
- (10) *Education Act 1996 (Act 550)*, 1996, pp.107-109, International Law Book Services; 施設によっては、就学前教育機関の総称をKindergartenと呼び、4歳児クラスをNursery、5歳児クラスをJunior、6歳児向けの就学準備クラスをPre-schoolと表現する場合もある。
- (11) CDC 就学前教育部長、Hj Maznah Harith への杉本によるインタビューによる(2002/9/2)。
- (12) CDC, 2002?, *op. cit.*, p.5.
- (13) CDC (Curriculum Development Center), Ministry of Education, 1998, *Garis Panduan Kurikulum Prasekolah*, p.5.
- (14) Shahril & Habib, 1999, *op. cit.*, p.27.
- (15) Government of Malaysia, 1996, *Seventh Malaysia Plan 1996-2000*, p.304.
- (16) CDC, 2002, *Huraian Kurikulum Kebangsaan Prasekolah: Edisi Percubaan*, CDC Ministry of Education Malaysia, p.2.
- (17) CDC, 1999, *Introduction to Curriculum Development Centre*, pp.8-10.
- (18) *Ibid.*, p.8.
- (19) CDC, 1998, *op. cit.*, p.13.
- (20) CDC, 2002, *op. cit.*, p.91.
- (21) *Berita Harian*, (online: <http://www.bharian.com.my>), 2002/4/23
- (22) CDC, 2002, *op. cit.*, p.107.
- (23) *Ibid.*, pp.340-355; ポートフォリオ型総合ファイルとは、子どもの作品を中心に学習成果やデータを継続的に収集しファイルにまとめたものを指す。子どもの発達や進歩を証拠に基づいてより正確に評価できる。
- (24) Private Education Department, Ministry of Education, 2001, *Data dan Maklumat Institusi Pendidikan Swasta*, 2001, p.1.
- (25) Anne Sofie Roald, 1994, *Tarbiya: Education and Politics in Islamic Movements in Jordan and Malaysia*, pp.283-286, Lund Studies in History of Religions, Vol.3, Malmoe.
- (26) *Ibid.*, pp.301-304.
- (27) *Ibid.*, pp.301-302.
- (28) <http://www.abim.org.my/taski/> (2002/9/12)
- (29) Kamariah Haron et al., 1999, *English: Siri Buku Taman Asuhan Kanak-kanak Islam (TASKI)*, (textbook), pp.1-40, Tradisi Ilum, Petaling Jaya.
- (30) 本節の記述はペー・シューキーによる現地調査、電話によるインタビュー(2001)に基づいている。
- (31) James J. Asher が提唱した第二言語教育方法, Asher, James J., 2000, *Learning another language through actions* (6th edition), Los Gatos, Calif., Sky Oaks Productions.
- (32) Institut CECE Malaysia, *A Pictorial Journal, Capturing the Pre-school Community's Spirit of Endeavour in the last three decades from 1976 to 2002*, 2002, p.vii.
- (33) *Ibid.*, pp.17-25.
- (34) <http://www.mydotcom.com.my/cece> (2002/10/14)
- (35) 杉本によるCECE教員（プログラムコーディネーター）Ms Oh Yean Chooへのインタビューによる(2002/9/4)

(比較教育政策学講座 助教授, 比較教育政策学講座 修士課程一年)